

PBL チュートリアルを活用したシミュレーショントレーニングの学習効果

石塚敏子¹⁾、平野宏美¹⁾、川崎久子²⁾、長谷川隆雄¹⁾、山田葉子¹⁾、佐藤信枝¹⁾

- 1) 新潟医療福祉大学 看護学科
- 2) 実践女子大学 生活環境学科

【背景・目的】筆者らは2015年度より看護実践力を高めるためにPBLチュートリアルを活用したシミュレーショントレーニング(以下ST)を実施している。2015年度に課題となった発表時間を延長し、学生のST自己評価表を加え、評価したので報告する。

【方法】1. 授業概要：看護学科2年基礎看護学演習Ⅱの4コマ。授業目的：看護実践力を修得するために、対象の状況把握とケアを提供する思考過程を理解する。1 グループ(G)学生5~6人。<1回目>学習方法の説明。各Gには発熱もしくは呼吸困難の事例を割り当てた。<2回目>PBL学習。<3回目>PBL学習後、事例に対応したシミュレーションを検討。<4回目>高性能シミュレータで事例を再現。学生2人が8分間で患者の状況を把握し、症状緩和を行う。その後、リーダー看護師(教員)に2分間でSBARにならない報告。録画DVD視聴後、演習4Gに対し、同僚評価4Gがデブリーフィングシートで評価内容を発表する。その後、全体で質疑応答を行う。2. 研究対象：A大学看護学科2年生95名。3. 研究期間：2017年5月~8月。4. 分析対象：1)学生のPBL自己評価表(十分にできた5点~不十分だった1点の5件法計20項目)、ST評価表(よくできた5点~できなかった2点の4件法計6項目)、STでの学びのレポート内容。5. 分析方法：PBL・ST評価表は単純集計した。レポートの本文はKHCoderを用いて計量テキスト分析を行った。6. 倫理的配慮：新潟医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得た。

【結果】研究参加者は93名。PBL評価(表1)の各項目の平均点は全て4点以上、ST評価(表2)も各項目の平均点が4点以上であった。KHCoderでの頻出語上位は、「患者」217、「考える」145、「看護」121、「技術」91、「必要」75であった(表3)。階層的クラスタ分析では<患者の訴え・症状を把握し、臨機応変に適切なケアで対応する><対象の問題をアセスメントし、安全・安楽を提供する><知識を適用し、状況に応じた看護技術を考える><情報を判断し、優先順位を考え援助する><事例を理解し予測して関わる><患者の変化を予測し、病歴を踏まえた改善方法><苦痛を訴える患者の改善方法とPBL学習での学び><バイタルサインや様々な視点からの観察が必要>の8つが抽出された。共起ネットワークでは「患者」を中心に「看護」、「考える」、「技術」の結びつきが強かった。

表 1.PBL 各項目の得点 n=93

学習要素	評価項目	M	SD
学習課題発見	1)私は課題シートを多面的に捉えようと努力した	4.40	0.59
	2)私は課題シートに含まれているテーマを推測した	4.29	0.54
	3)私は課題シートからさまざまな疑問点や学習項目を抽出した	4.43	0.64
	4)私は疑問点や学習項目が解決できるための方法を考えようとした	4.46	0.58
	5)私は疑問点や学習項目が解決できるための資料収集を行った	4.22	0.66
統合的学習	6)私は関連分野に広く関心を向けるように努力した	4.32	0.66
	7)私は既存の知識を整理し適用した	4.21	0.67
	8)私は学習項目に分析を加えた	4.13	0.70
	9)私は知識間の相互の因果関係がわかった	4.18	0.70
自己学習	10)私は発展的・応用的な事項を学ぼうとした	4.06	0.71
	11)私は到達目標を意識して学習項目を抽出した	4.09	0.66
	12)私は学習項目に優先度をつけた	4.04	0.83
	13)私は学習計画の時間配分を考えた	3.98	0.77
	14)私は自己学習に十分な努力を注いだ	4.17	0.66
対人技能	15)私は自己の到達目標を達成することができた	4.21	0.67
	16)私はメンバーの考えを理解しようとしていることを示した	4.50	0.66
	17)私は簡明かつ論理的に意見を述べた	4.00	0.82
	18)私はメンバーの意見を攻撃することなく異論を述べた	4.40	0.75
	19)私はメンバー間の関係性がよくなるように努力した	4.40	0.75
	20)私はグループスキルを意識して建設的に自己の役割を果たした	4.31	0.73

表 2. シミュレーション各項目の得点 n=93

評価項目	M	SD
1.シミュレーション事例に対する適切な観察項目をあげることができた	4.36	0.54
2.シミュレーション事例に対し適切なアセスメント内容をあげることができた	4.32	0.57
3.シミュレーション事例に対しての適切な対処方法をあげることができた	4.43	0.55
4.グループで実施した(考えた)シミュレーション事例への対処方法を再評価することができた	4.36	0.65
5.シミュレーション事例に対して説明や同意を得ながら、実施できた(説明同意・内容を記載できた)	4.26	0.66
6.シミュレーション事例に必要な看護がSBARで報告できた(もしくは提案内容)	4.18	0.60

表 3 頻出語 150 (一部抜粋)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
患者	217	症状	33
考える	145	ケア	32
看護	121	知識	32
技術	91	応じる	30
必要	75	感じる	30
状況	62	観察	30
訴え	41	提供	29
大切	41	優先	29
行う	38	適用	28
状態	37	判断	28
重要	34	情報	26
対応	34	把握	25
出来る	33		

【考察】PBL・ST評価とも高得点であり、学生の本授業による達成感が高かったといえる。クラスタ分析では、「症状に応じた看護」など実践を意識した語が多く抽出され、本授業の目的はほぼ達成されていた。2015年度の階層的クラスタで抽出された「時間」はなかったことから、設定時間内での発表の困難さは軽減でき、時間は妥当であった。さらに共起ネットワークで2015年度にはなかった「技術」が抽出されていた。階層的クラスタで「安全・安楽に技術を提供する」「適切なケア」などがあり、実践上必要な「技術」に関して意識できていた。

【結論】

1. 臨場感のある事例問題を提示し、自己学習、Gでの机上学習からシミュレーション対応を意識した演習を導入することで、学生は主体的に学習し、実践を意識した学びができ、達成感も高かった。
2. この教授法は、学生が状況を判断しながら看護を具現化でき、看護実践能力の獲得につながる教育方法である。